



ものづくり現場の声を国に届ける！

4/25 参議院経済産業委員会での国会質問

質問内容	答弁者名	答弁内容
<ul style="list-style-type: none">カーボンプライシング（二酸化炭素の排出量取引）の価格転嫁により、中小企業へのしわ寄せが懸念される、適切な転嫁をどう確保するのか？	経済産業大臣 西村康稔	<ul style="list-style-type: none">カーボンプライシングでは、中小企業をはじめとする企業が、GX（脱炭素）に取り組む一定の準備期間を設けた上で、導入する。
<ul style="list-style-type: none">昨年9月の価格転嫁促進月間のフォローアップ調査では、エネルギー価格と労務費の転嫁が難しい実態が明らかになった。エネルギー価格の価格転嫁を国として、どう取り組むのか？	経済産業省 経済産業政策局長 飯田祐二	<ul style="list-style-type: none">パートナーシップ構築宣言を含めて、原材料だけではなくて価格転嫁ができるように進めていく。
<ul style="list-style-type: none">GX（脱炭素）推進に伴う、「公正な労働移行」について、<u>労働条件が悪化するのでは</u>あれば、「公正な移行」とは<u>言えない</u>。雇用の質も考えてほしい。	経済産業大臣 西村康稔	<ul style="list-style-type: none">問題意識は共有している。GX経済移行債（20年20兆円規模）を活用した先行投資支援で、リスクリング等の人材育成や、成長分野への円滑な労働移動整備を行う。雇用の質向上を始めとする、公正な移行の観点からGXを推進する。
<ul style="list-style-type: none"><u>自動車のエンジンを製造する皆さんの話を聞いていると、「いつまで自分たちの仕事があるのか不安だ。」</u>という声が聞こえてくる。国としてどのような支援をしているのか。	経済産業省 官房審議官 藤本武士	<ul style="list-style-type: none"><u>事業再構築補助金</u>による<u>設備投資、人材育成を推進</u>する。エンジン部品の中小サプライヤーが、電動車部品の製造への転換を積極的に支援していく。
<ul style="list-style-type: none">中小企業で賃上げが進んでいない。<u>自動車部品サプライヤー事業転換支援事業が始まったが、国は現場の声を直接聞いて支援していくべきではないか。</u>国は電動化を進める中で、エンジン回りを製造する働く皆さんから、「<u>自分たちのエンジンが、将来残るかがわからず不安だ。国の方針に振り回されている。</u>」と聞いた。国は、現場と連携して欲しい。	経済産業省 官房審議官 藤本武士	<ul style="list-style-type: none">支援事業が行ったセミナー及び研修では、全国で84回、延べ2,938社が参加した。引き続き、<u>中小自動車部品サプライヤーへの支援</u>を充実させる。
<ul style="list-style-type: none">建設機械や荷役機械、フォークリフト、シャベルで電動化や燃料電池車を使う取り組みが推進している。これには、事業所内の水素ステーションが必要であるため、国として支援を行って欲しい。	経済産業省 省エネルギー・ 新エネルギー部長 井上博雄	<ul style="list-style-type: none">経産省として、事業所内における水素ステーションは支援対象にしていない。ただ、令和4年度から、燃料電池フォークリフトに対応出来るよう、<u>水素ステーションのマルチ化を支援対象</u>とした。

◇◆村田きょうこファンミーティングお知らせ◆◇
2023年5月22日（月）12:15~12:35
活動報告や皆様からの質問にお答えします！！
※詳細は別途発行される告知チラシをご確認ください。

【村田享子公式LINEアカウント】
LINEからも定期的に📢情報発信中📢
QRコードからログインしてお友達登録を！
皆さんの登録を待っています

